

婦人科腫瘍委員会

委員長 八重樫 伸 生
副委員長 永 瀬 智

委員 榎本 隆之, 片渕 秀隆, 川名 敬, 小林 裕明, 小林 陽一
生水真紀夫, 馬場 長, 森重健一郎, 吉田 好雄, 吉野 潔

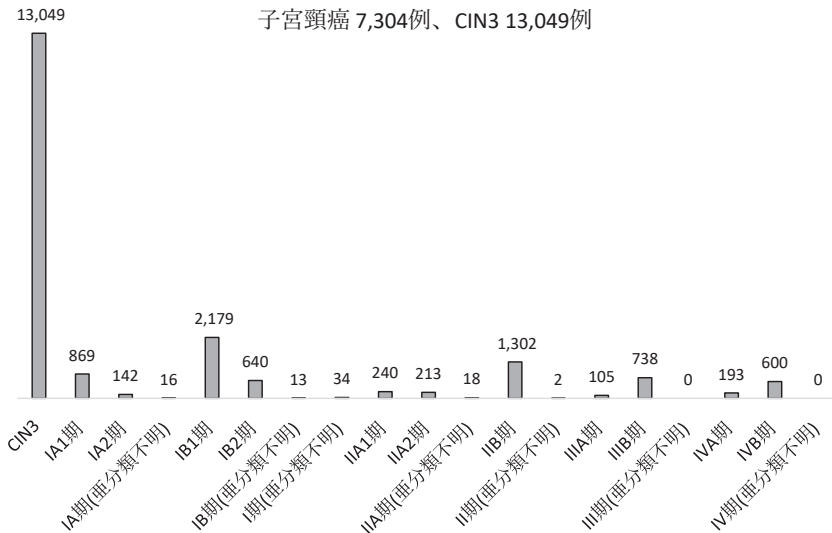
幹 事 徳永 英樹

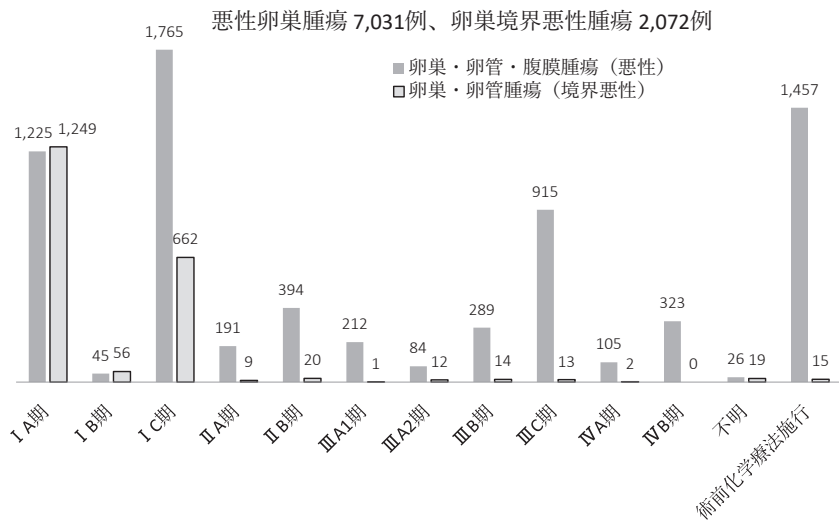
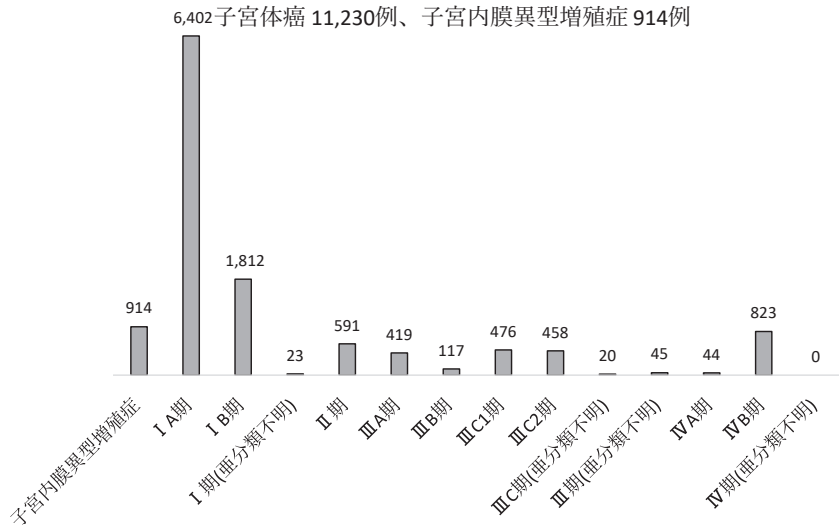
1. 常置的事業

婦人科悪性腫瘍のオンライン登録事業として、2014年度より東北大学病院臨床研究推進センターと契約し、以下の項目を遂行している。

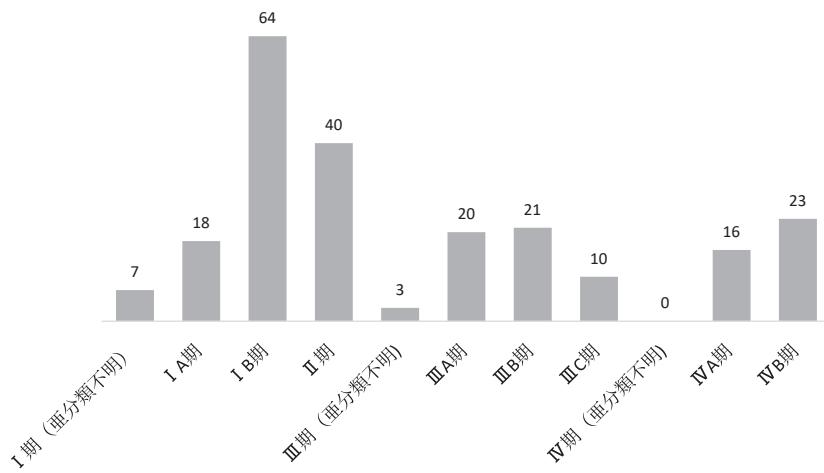
- (1) 2019年の婦人科悪性腫瘍症例(子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性), 外陰癌・陰癌・子宮肉腫・子宮腺肉腫・絨毛性疾患)のオンライン登録事業を行った。
- (2) 加盟449機関より2018年1月1日から12月31日

までに治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性・境界悪性), 外陰癌, 陰癌, 子宮肉腫, 子宮腺肉腫, 絨毛性疾患症例を集計・解析し症例の患者情報および2013年治療開始症例の予後情報を集計・解析し、疑義照会を行ったうえで、婦人科腫瘍委員会ホームページ並びに日産婦誌に、2018年患者年報として報告する予定である。以下に2018年患者年報の抜粋を示す。

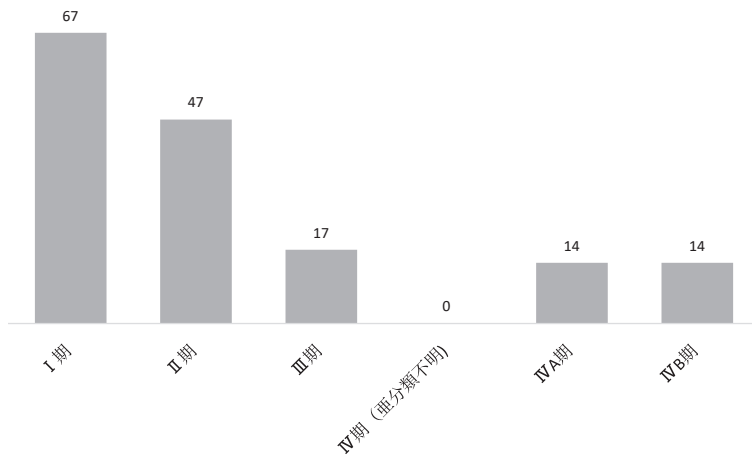




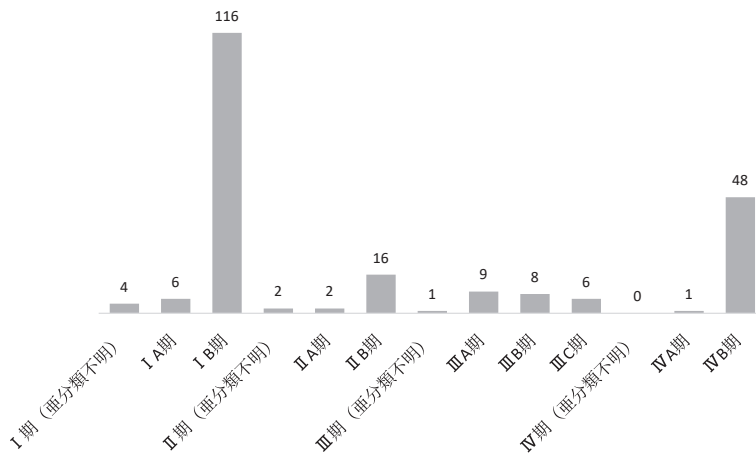
外陰癌 222例

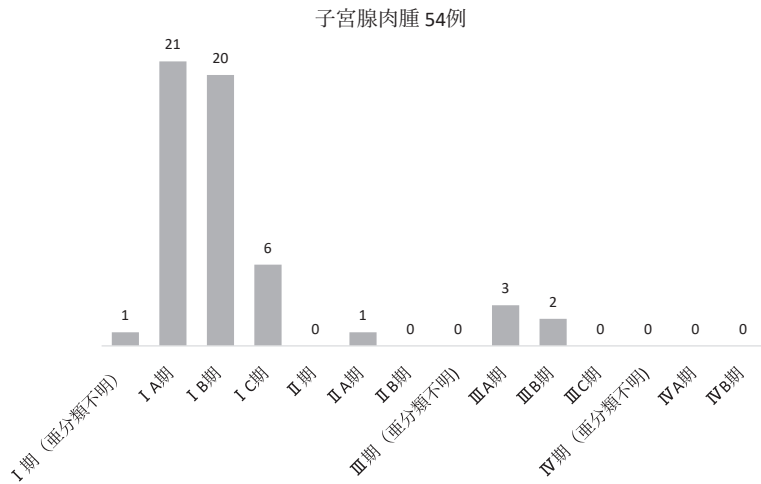
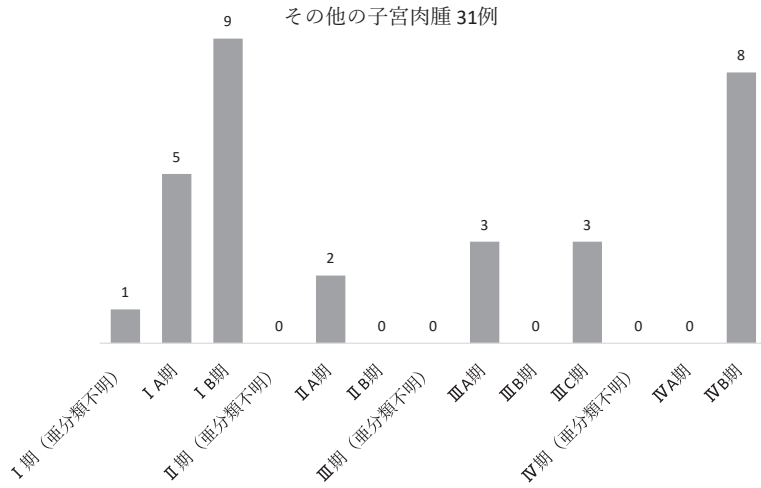
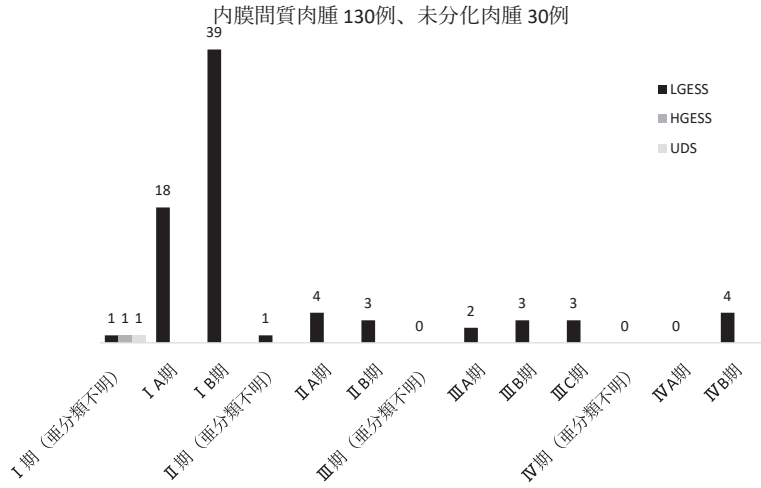


膣癌 159例

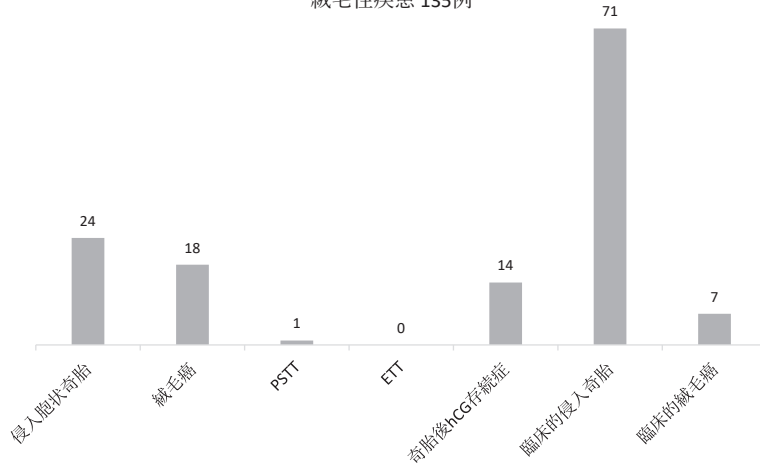


子宮平滑筋肉腫 219例





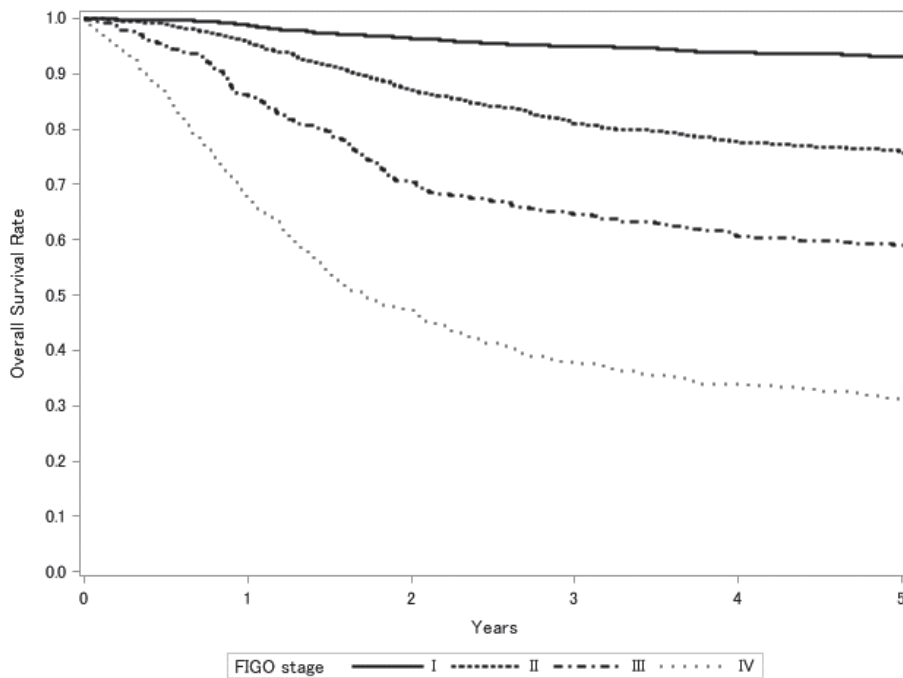
絨毛性疾患 135例



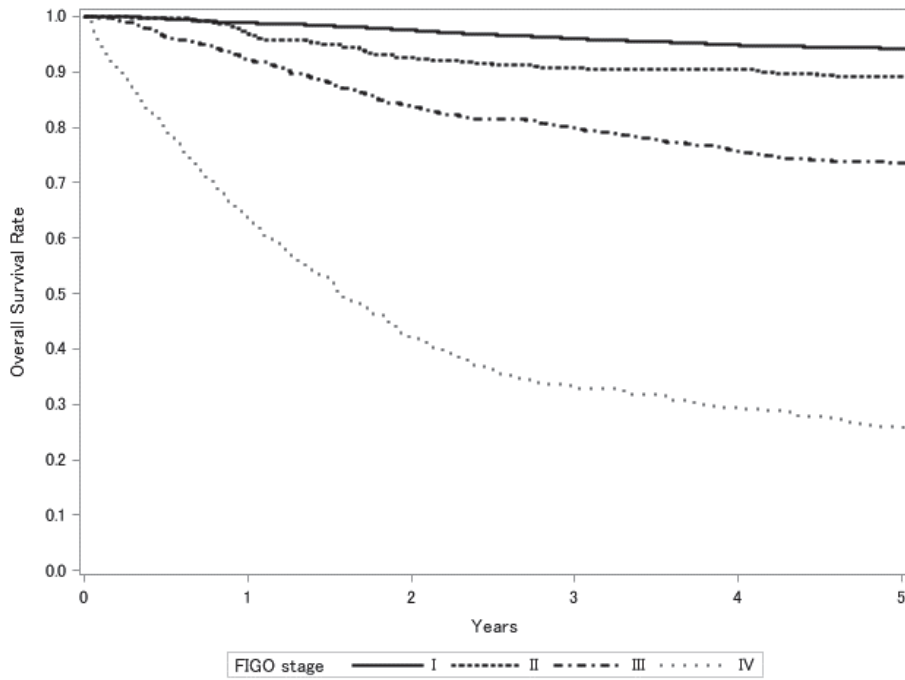
(3) 2013年に治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性・境界悪性)症例の予後情報を集計・解析し, 疑義照会を行ったうえで, 婦人科腫瘍委

員会ホームページ並びに日産婦誌に, 第61回治療年報(2013年治療開始症例)として報告する予定である. 以下に第61回治療年報の抜粋を示す.

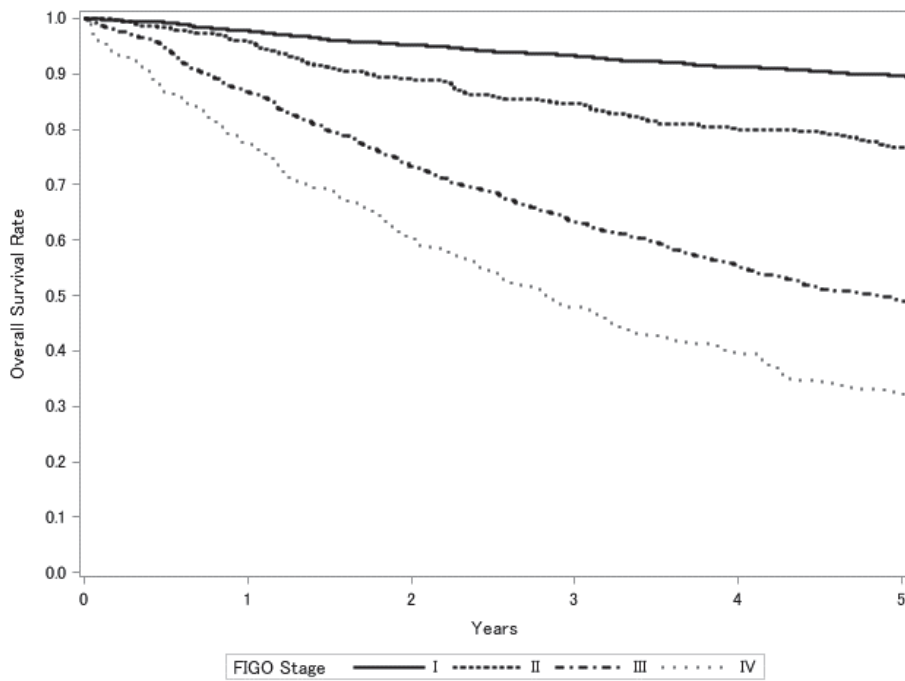
【子宮頸癌】



【子宮体癌】



【卵巢癌】



- (4) 婦人科腫瘍委員会ホームページ並びに日産婦誌に2017年絨毛性疾患地域登録成績を報告する予定である。

2. 親委員会活動について

- (1) 前々年度に施行した性成熟期の女性に発症する疾患の臨床的対応の実態を引き続き調査し、産婦人科的指針の作成を進めている。子宮頸部円錐切除術の実態調査に関して2報論文が公開された(2019 Dec; 45(12): 2419-2424, Gynecol Oncol. 2020 Feb; 156(2): 341-348)。抗NMDA受容体抗体脳炎の全国調査について各施設でのIRB承認後に2次調査を行い、調査結果を第61回日本婦人科腫瘍学会(新潟)で報告を行った。現在、英文論文の作成を進めている。遠隔再発・遠隔転移を来した子宮平滑筋腫瘍の臨床病理学的検討に関して、第61回日本婦人科腫瘍学会で結果を報告した。病理結果とともに論文作成中である。本邦における若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究に関して、第61回日本婦人科腫瘍学会で結果を報告した。現在論文を作成中である。本邦における卵巣癌(上皮性腫瘍)に対する妊孕性温存治療に関する実態調査を目的とした全国規模の調査研究に関して、第61回日本婦人科腫瘍学会で結果を報告した。本邦における胎状奇胎の掻爬回数現状と続発症の頻度を後方視的に解析することを目的とした全国規模の調査研究に関して、第71回日産婦学術講演会および第61回日本婦人科腫瘍学会で結果を報告した。子宮頸癌に対する開腹手術と腹腔鏡下/ロボット支援下手術に対する評価の基盤となるデータを検討する調査研究に関して、第71回日産婦学術講演会および第61回日本婦人科腫瘍学会で中間解析結果を報告した。本邦における子宮頸癌または卵巣癌合併妊娠の頻度と現状を後方視的に解析することを目的とした全国規模の調査研究に関して、データを解析中である。子宮頸癌のFIGO進行期改訂(FIGO2018)を受け、「子宮頸癌取扱い規約改訂に関する小委員会」を新たに設置した。

3. 小委員会事業

本年度は4つの小委員会が設置され、以下の活動が行われた。

- (1) 婦人科悪性腫瘍登録システムの改良に関する小委員会

委員長 永瀬 智

委員 高橋史朗*, 徳永英樹, 三上幹男,
山上 亘, 吉野 潔

婦人科腫瘍登録の登録データの品質管理のために、疑義照会システムの改良を行い、登録施設での修正を徹底するとともに、入力者用のQ&Aの修正を行った。また、2019年子宮頸癌登録要項を改訂し、手術症例に関する時限的な特別調査項目の登録を開始した。これにより、子宮頸癌に対する手術療法の現状と治療成績に影響を与える因子をより詳細に把握できるようになることが期待される。

- (2) 子宮頸癌の予防に関する小委員会

委員長 川名 敬

委員 井篁一彦, 上田 豊, 榎本隆之,
宮城悦子

HPVワクチンによる子宮頸がん発症予防と検診による早期発見の重要性について学会および国民に正しい情報を正確に伝えることを目的とし、「子宮頸がん検診・HPVワクチン促進委員会」と合同委員会を開催し、合同事業の立案を行った。がん教育推進のための教材へのHPVワクチンの記載を文科省に要望した。思春期女子をはじめとする国民への啓発資料の作成に入った(次年度公表予定)。

- (3) 低侵襲広汎子宮全摘術のあり方を考える小委員会

委員長 榎本隆之

委員 小林栄仁, 永瀬 智, 山上 亘,
吉田好雄

本邦の低侵襲広汎子宮全摘術の実態調査を行うことを目的とし、関連学会と協力して子宮頸癌に対して広汎子宮全摘術を施行した症例について前方視的予後調査ができるシステムを構築する。腹腔鏡下広汎子宮全摘術を実施する施設について登録システムを規定し、申請の受付を開始した。

- (4) 子宮頸癌取扱い規約改訂に関する小委員会

委員長 片瀨秀隆

委員 青木大輔, 小林陽一, 生水真紀夫,
馬場 長, 森重健一郎, 吉野 潔

FIGOは2018年11月に子宮頸癌の進行期分類を改訂し、紙面発表した。日本産科婦人科学会が2012年に

発行した「子宮頸癌取扱い規約 第3版」の見直しをする編集委員会を小委員会内に設置し、改訂作業に着手

した。2020年中に発刊し、2021年1月以降の症例から新進行期分類を採用する予定である。
